

# 神明神社の棕（むく）

- 所在地 四郷 神明神社の境内
- 指定年月日 町指定 天然記念物 昭和32年9月3日
- 時代 江戸時代

神明神社の祭神は天照皇大神である、「そうすい祭り」で親しまれている四郷神明神社は、神明明細帳に永正2（1505）年の創建とある。神殿は大樽川右岸堤防の高台に鎮座し、境内は水害時の助命壇である。

この地は長良川と揖斐川を結ぶ大樽川の水難所で堤防守護の神を祀るにふさわしい所でもある。また、境内には、もと棕・松・杉・桧等の自生林があって、老大樹がうっ蒼と茂って、実に立派な社叢あった。それゆえ、この社はまさに神社の社格と古い歴史を物語って、社叢にたいじ対峙すると敬虔な気持けいけんを起こさずにはいられない。

この貴い文化財も、昭和34年9月の伊勢湾台風によって根こそぎいたみつけられ、その後、年を追って数多くの樹々が枯死していったのは残念なことである。

今は、古木としては唯一本、樹齢500年といわれる目通り5メートルのむく棕の大樹だけがその名残をとどめている。



神明神社の棕（むく）